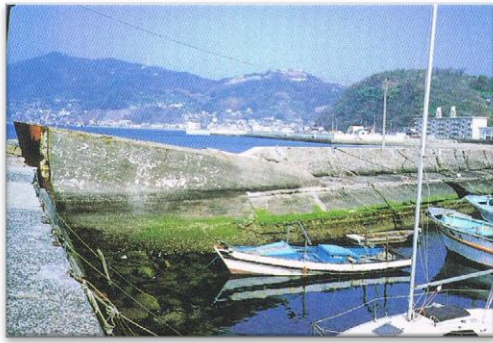


1 音戸大橋

日本道路公団によって、昭和 36(1961)年 11 月 6 日、総延長 1,184mの国内では、唯一のらせん形大橋として完成する。

瀬戸に映える朱塗りの大橋は、820 有余年昔の平清盛公の瀬戸開削の偉業とともに有名。



2 コンクリート船

太平洋戦争中に鉄が不足したので、油や食料等の輸送船として、コンクリートで建造されたもので、戦後は、坪井に漁港としてこれを利用している。

この船は曳航式油槽船で、終戦までに 5 隻しか完成せず、原型をとどめているものは、ここしか残っていません。



3 観音さん

戦艦「伊勢」が、坪井沖で昭和 20(1945)年 7 月に、米軍の攻撃を受け、その犠牲となった人たちの霊を慰めるために、「勢至観音菩薩像」として建立される。



4 黒権現

昔、久左衛門が、この地に漁法を伝え、その恩に報いて坪井の丘にお堂を建立し、人々から「くろうさん」として親しまれ、また、この地域に火災が起らなかったことから「火の神様」としてあがめられている。



5 瀬戸八幡神社

瀬戸三区の氏神として、延宝 3(1675)年に建立され、祭神は応神天皇である。

境内にあるユーカリの木は、三抱えもある大木で神木といわれている。



6 順覚寺

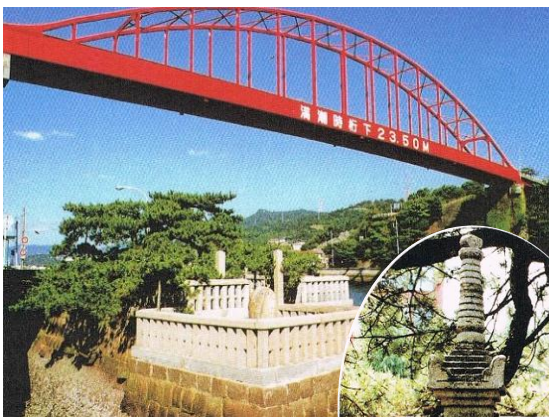
16 世紀後半に禅宗から浄土真宗に改宗され、現在の本堂は明治 10(1877)年に改築される。鐘楼門は、平安時代の様式をまねて建立されたといわれ、68 段の石段は、文政 4(1821)年に築造されたものである。



7 法専寺

毛利氏の出、元為(後に出家して僧:法専)が、天台宗の寺を開き、後に浄土真宗に改宗される。この寺には、天正 4(1576)年の石山合戦で、毛利軍の船に幟を立て食料を運んだ際の幟を下げた鍬が保存されている。

石垣は、「忍び返し」がついており、いざという時、城として使おうとしたのではないかとされている。毛利の埋蔵金の伝説の地として有名。



8 清盛塚

音戸の瀬戸を切り開いたといわれる平清盛公が、人柱の代わりに一字一石の経石を海底に沈め、難工事を完成した。元暦元(1184)年その功德をたたえ、その供養のために清盛塚を建立し、昭和 26(1951)年に県の文化財に指定される。

周囲 49m の石垣に囲まれた清盛塚中央に、清盛公供養のために建てられた宝篋印塔がある。

また境内の老松は約 270 有余年前に植えられ、みごとな枝ぶりを瀬戸に映し、清盛松として親しまれている。(歯痛で困った時には、この歯をかむと治るといわれていた。)



9 音戸の舟唄

「船頭可哀いや、音戸の瀬戸で一丈五尺の櫓がしわる」と唄われている音戸の舟唄の碑がある。

この舟唄は、日本三大舟唄の一つといわれている。(呉市無形文化財)



10 清盛祭

清盛祭は、音戸の瀬戸を切り開いた清盛公を偲んで、踊られた「念仏踊り」が、江戸時代の天保の頃から格式のある「大名行列」となった。

当時の風俗を取り入れた、瀬堀り、奴姿等の勇壮な踊り手が延々と続き、きらびやかな平安絵巻が繰り広げられ、全国的に有名になっている。(呉市無形文化財)



11 梵潮寺

約1,200有余年前の奈良時代に、僧行基が刻んだといわれる十一面観音菩薩像を、僧宗誓がお祀りした寺である。

この寺の裏に、19基もの五輪塔がある。これは、平安時代の終わり頃、源平合戦で敗れた平氏一族のものではないかといわれている。



12 御所の浦と泊(とまり)

「御所の浦」というバス停がある。長寛2(1164)年平清盛公が音戸の瀬戸を開削する時に、ここに、仮御殿を建て、工事の監督をしたことから、この地を「御所の浦」と呼んでいる。

昔、瀬戸の渦潮がひどく船の航行が出来なくなった時に、避難場所として潮待ちをしていたことから、この付近を「泊(とまり)」といわれている。



13 善行寺

天文2(1533)年、僧天海が真言宗の開蔵寺を建て、その後、善光寺初代住職徳善が真宗に帰依し、天文11(1583)年、浄土真宗に改宗している。



14 宝篋印塔

善行寺，北東の小高い所に，廃寺となった西向寺跡に建立されている。

この印塔は，15 世紀前半頃に活躍した先郷城主重見氏のものといわれている。



15 特攻基地の石碑と海軍工廠倉庫跡

特攻基地大浦崎は，昭和 17(1942)年，旧海軍によって特殊潜航艇建造のために専門工場が建てられ，訓練も行われていた。

ここでは，特攻兵器「蛟竜」や人間魚雷「回天」等が造られ，昭和 20(1945)年8月終戦となり，基地が閉鎖された今では，県立水産試験場並びに大浦崎公園となっている。その当時の海軍工廠の倉庫が今でも残っている。



16 八幡山神社

やはたやまじんじゃ

本社殿は，約 1,200 年程前の天平宝字年間に勧請と伝えられ，祭神は応神天皇を主神として神功皇后・玉依姫命が祀られている。

中世の戦乱により，矢野に遷されたこともあり，永禄 3(1560)年渡子を経て，波多見に移されている。天正 4(1576)年小早川隆景が再建し，その後 2~3 回改修され，音戸町の氏神として祀られている。



17 桐の木古墳

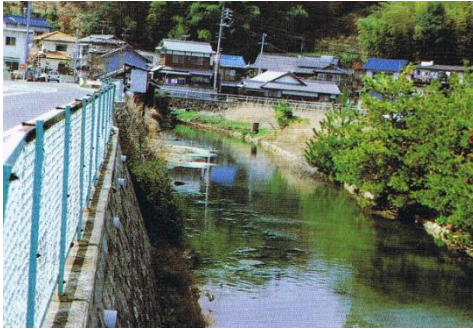
波多見小学校の丘の桐の木山の中腹にあり，昭和 28(1953)年に広島大学考古学教室が中心となって発掘され，その結果約 1,300年程前の箱形石棺であることがわかった。

ここには，1号石棺(50歳前後の男性)と，2号石棺(女性)があり，夫婦のものとして推定されている。男性の胃の部分からは，炭のような米粒が発見される。このことから，その当時すでに米作りが行われていたと推測することができる。



18 畑大神社

畑区の氏神様，大神社で祭神は天照大神である。貞亨3(1686)年に建立され，その後数回の改宗行われている。



19 瀬廻し

防潮堤・壕・樋門の三つを合わせて、「瀬廻し」と呼んでいる。防潮堤の中央部が壕で，この上部に樋門がある。

この瀬廻しは畑コミュニティセンター会館隣り(写真)の他に，南隠渡新開前と，藤脇の消防屯所後るにも設けられている。



20 玉剣神社

たまつるぎじんじや

有清区の氏神様で，別名八王子社とも呼ばれている。永正 13(1516)年，小早川弘平によって建立されたと伝えられ，祭神は五男三女神とされ，主神は市杵島姫命である。



21 先奥大神社

先奥区の氏神様，大神社で，ご祭神は天照大神で元禄 11(1698)年建立され，明治 9(1860)年に本殿の改修が行われている。



22 若宮さん

約 800 年前の源平の戦いで，平家は 8 歳の安徳天皇を奉じて屋島から壇ノ浦に下る途中，対岸の能美島王泊に行在所が設けられた。この時，旅の疲れを慰めるため，藤脇にご来遊になられた。

住民は，この悲運の天皇を偲び，約 150 年程前の天保 13(1842)年この地に石塔を建て，天皇を祀ったと伝えられる。



23 毘沙門堂

早瀬砲台のすぐ隣の峰に毘沙門天を祀ったお堂があり、昔は、60年に一度扉が開かれ、四国や九州からも沢山の参拝者が訪れて賑わっていた。



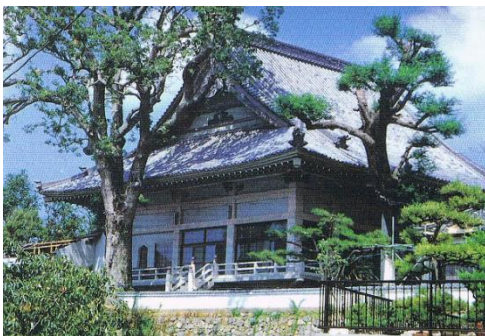
24 早瀬砲台兵舎跡

早瀬の瀬戸山上に芸予砲台跡がある。ここには、弾薬庫跡が見られ、日清戦争後、広島湾防衛上の必要から要塞建設を急ぎ、6年半という年月をかけ、その当時としては莫大な軍事費を投入し、巨大な構えの砲台が建設された。



25 天神社

田原区の氏神様である天神社は、15世紀の天文年間に創立されたことから、天文堂とも呼ばれている。寛文6(1666)年に再建され他に南隠渡にも天神社がある。祭神は菅原道真公である。



26 専教寺

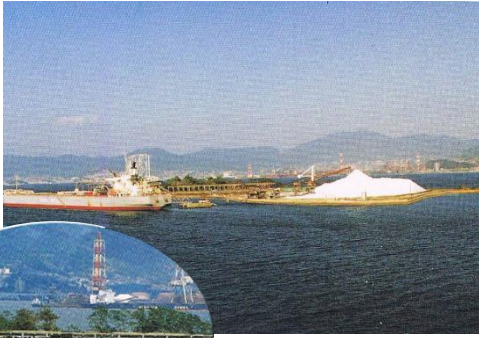
田原区にある専教寺は、16世紀の初め頃、吉川仙寿丸が真言宗として開基し、僧起縁が誓願寺を建て、その後、約290年程前に浄土真宗に改宗した。五代住職閑立が、専教寺と改名し、旧渡子島三区の門徒の信仰を集めている。

また、境内には樹齢およそ400年ともいわれる楠と棕の巨木がある。



27 お大師堂

昔、弘法大師が渡子区に立ち寄られ布教したと伝えられている。今では、宗派に関係なく毎年旧暦の3月に弘法大師の命日を偲んで祭礼が行われている。



28 三ツ子島

渡子の沖合に浮かぶ島を「三ツ子島」と呼んでいる。旧海軍の兵器や医薬品等を貯蔵する施設の外、海軍病院もあった。現在は、メキシコから工業用の塩を輸入し、全国の製鉄所や化学工場等に配送する中継基地となっている。

左下の写真は、当時の倉庫跡である。